

環境報告書 2020



生活協同組合 パルシステム茨城 栃木

パルシステム茨城 栃木

環境報告書発行にあたって

日頃よりパルシステム茨城 栃木の事業活動や組合員活動においてご支援とご協力いただき、誠にありがとうございます。
さて、4月7日(火)政府から緊急事態宣言が出され、組合員のみなさまにおかれましても、新型コロナウイルス感染拡大が懸念される中、日々不安な生活を送られている事と存じます。

生活協同組合は、組合員のくらしを守ることを使命とし、災害時も組合員に商品を届けるという大きな役割を担っております。まさに緊急事態宣言が出された今は非常時であり、今後も組合員のみなさまが安心して利用いただける環境づくりにパルシステムグループ一丸となって注力してまいります。

このような状況ではありますが、2019年度に行った当生協の環境活動をこの環境報告書2020にてみなさまにご報告させていただきます。

末尾になりますが、みなさまの健康を祈念し、今後とも当生協へのご支援とご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

2020年5月

生活協同組合パルシステム茨城 栃木
専務理事 塚本 昭二



理念

パルシステム茨城 栃木は、「心豊かなくらしと共生の社会を創ります。一人ひとりの愛と自立した共同の力で心豊かな暮らしの創造と誰もが公平に生きづけられる社会をめざします」を理念にかけ、環境にやさしい取り組みを強め、循環型社会づくりをめざしています。

組織の概要

◇設立年月日	2000年 3月20日
◇ 所 在 地	〒310-0022 茨城県水戸市梅香二丁目1番39号 TEL.029-227-2225 FAX.029-227-2235
◇ 代 表 者	理事長 青木 恭代
◇ 沿革	「生活協同組合コープあい」と「ひたちコープ生活協同組合」が組織合同し「生活協同組合ハイコープ」に名称を変更。2007年6月「生活協同組合パルシステム茨城」に名称を変更。2018年9月「生活協同組合パルシステム茨城 栃木」に名称を変更。
◇ 供 給 高	152.7億円
◇ 出 資 金	60.1億円
◇ 組 合 員	133,894人
◇ 施 設	本部、無店舗事業センター7、店舗2、組合員拡大事務所1

2020年3月31日現在

パルシステム茨城 栃木環境方針

生活協同組合パルシステム茨城 栃木は、パルシステム茨城 栃木の理念「心豊かなくらしと共生の社会を創ります～一人ひとりの愛と自立した協同の力で心豊かな暮らしの創造と誰もが公平に生きづけられる社会をめざします」のもと、環境にやさしい取り組みを強め、循環型社会づくりをめざすため、以下の環境方針を定めます。

生活協同組合パルシステム茨城 栃木は、組合員に対して商品の供給・配達事業と共済などのサービス事業をとおして、生協運動や組合員活動をおこなっています。こうした事業活動、サービスによる主要な環境影響を常に認識し、組織の環境側面に関係して、適用可能な法的・規制的要求事項及びその他の受け入れを決めた要求事項を遵守します。また、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・環境目標を設定し、定期的な見直しをとおして、環境負荷の軽減・汚染の予防と環境マネジメントシステム・環境パフォーマンス向上を目的に継続的改善をはかります。

- (1) 地球温暖化防止のためにCO₂総排出量の削減に取り組みます。
- (2) 環境に配慮した生産品・商品の普及に取り組みます。
- (3) 環境負荷低減の意識向上に取り組みます。
- (4) 廃棄物の削減、リユース・リサイクル品の回収向上に取り組みます。
- (5) 地域と連携し、組合員とともに生物多様性保全に取り組みます。
- (6) 再生可能エネルギーの拡大に取り組みます。

以上の活動をすすめるため、組織で働く、または組織のために働く役・職員が環境方針を理解し、行動できるよう、啓発及び教育活動をとおして周知徹底をはかります。

この環境方針は、生活協同組合パルシステム茨城 栃木内外に公開します。

2018年9月1日

生活協同組合パルシステム茨城 栃木
専務理事 塚本 昭二

環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムに関する国際規格ISO14001に適合した環境マネジメントシステムを構築し、2003年2月に(株)日本環境認証機構から認証されました。

認証取得後も継続的にマネジメントシステムを維持・改善し、今年度も2020年1月22日～24日のISO14001:2015定期サーケルインススペクションを経て認証継続することができました。

環境方針に基づく環境目標と実績

環境方針	項目	環境目標	2019年度実績	評価
(1)	CO ₂ 総排出量の削減	CO ₂ 総排出量 1,620,068 kg-CO ₂ 以内 原単位 10,667 kg-CO ₂ 以内	1,660,898kg-CO ₂ 10,903kg-CO ₂	×
		公用車の燃費向上 19.0km/ℓ以上	20.km/ℓ	○
(2)	環境に配慮した生産品・商品の普及	「ほんもの実感!」くらしづくりアクション 牛乳・卵・豆腐・産直原料で作った加工品利用率60.3%以上	56.2%	×
(3)	環境負荷低減の意識向上	うちエコ診断48名以上への実施	48名	○
		リサイクル学習会とテスト 20回実施	22回	○
		「南三陸町の戸倉っこかき」135名以上参加	201名	○
		ノー残業デー実施回数 792回以上	906回	○
(4)	廃棄物の削減、リユース・リサイクル品の回収向上	リユースびんの回収率 59.6%以上	62.2%	○
		紙パックの回収率 62.4%以上	57.7%	×
		資材プラスチックの回収率 31.2%以上	28.4%	×
		ABパックの回収率 25.5%以上	25.1%	×
		お料理セットトレーの回収率 67.1%以上	74.1%	○
		ペットボトルの回収率 52.2%以上	49.9%	×
		環境ボランティア参加 4回以上	4回	○
(5)	生物多様性保全	新規組合員の加入 15,000名以上	13,094名	×
		利用率 80.7%以上 ※注1	80.8%	○
		組合員純増 5,189名以上	3,744名	×
		生物多様性保全の大切さを伝える企画の参加者2,671名以上	1,502名	×
(6)	再生可能エネルギーの拡大	バルシステムでんきの切り替え1,584名以上	1,221名	×

※注1 利用率:注文書を配布した枚数を、実際に注文した人数で割り算した値。

●対象期間:2019年度(2019年4月~2020年3月) ●CO₂総排出量:電気・ガス・水道・灯油・車両から排出される二酸化炭素の総量

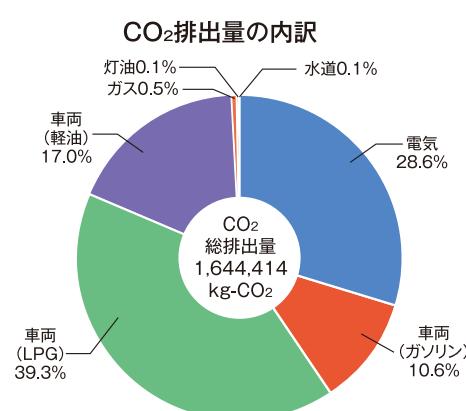
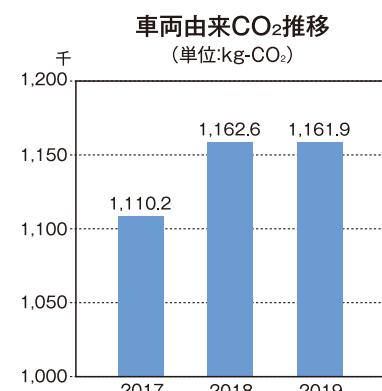
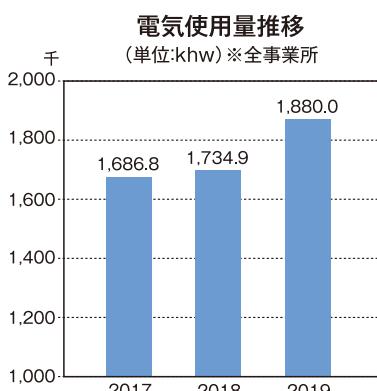
●原単位:事業所ごとに、各エネルギー消費量の合計した値を、エネルギー使用量と密接な関係にある単位(バルシステム茨城 栃木では受注高)で割り算した値。

●環境方針に基づく環境目標と実績は、本部及び配送センター適用です。

地球温暖化防止自主行動計画

当生協では、全国の主要生協とともに地球温暖化防止自主行動計画を策定し「2030年までに事業にともなう二酸化炭素の排出量を2013年度比で26%削減」をめざし取り組んでいます。

2019年度は、基準年となる2013年度と比べて3.7%削減しました。これは電気の購入先を二酸化炭素排出係数の低いバルシステム電力に切り替えたことが大きく影響しています。2019年3月から稼働しているバルシステム栃木センターも、2020年4月に切換えを予定しています。設備の更新等、今後も排出量総量削減に向けて取り組みをすすめていきます。



平成31年度 環境保全茨城県民会議ほう賞等受賞

4月23日(火)、平成31年度環境保全茨城県民会議ほう賞等*一般部門(団体)を受賞しました。これまで当生協では、パルシステムグループとともに環境に配慮した商品作りやお届け、環境に配慮した暮らしの提案などに取り組んできました。今後も環境にやさしい取り組みをすすめてまいります。

*環境保全活動に対する理解と活動の輪の広がることを目的として、県内で環境保全県民運動の推進に顕著な功績のあった者を表彰する制度

環境保全に係る実践活動の取り組み(抜粋)

●地球温暖化防止

ISO14001認証継続、温暖化防止自主行動計画等
再生可能エネルギーの普及、ソーラーシェアリング太陽光発電

●ゴミの減量化

リユースびん、ABパックのリサイクル

●自然環境保全

生物多様性保全、地域社会への自然環境保全の取り組み

●環境学習

組合員による持続可能な社会づくりを目指した取り組み

●パートナーシップの形成

「見守り活動等の協力協定」および「災害時における生活物資供給の協力協定」、「くらし活動助成基金等」
茨城県森林湖沼環境税活用事業の取り組み



▲右から環境保全茨城県民会議長中川喜久治氏、当生協前理事長石川弓子

リユース・リサイクル回収率*

資源の国内循環と廃棄物の削減のため、容器包装のリユース・リサイクルをすすめています。

*回収率: 1年間に販売した量を、生協が回収した量で割り算した値

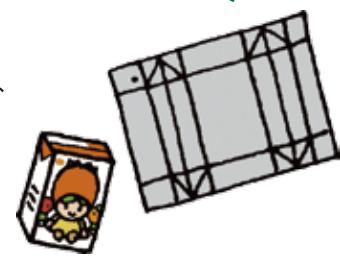
	回収率	前年	
リユースびん	62.2%	58.6%	↑ UP!
紙パック	57.7%	61.4%	↓
商品カタログ	78.5%	80.9%	↓
資源プラスチック	28.4%	30.7%	↓
ABパック	25.1%	24.5%	↑ UP!
注文用紙	83.5%	83.1%	↑ UP!
たまごパック	78.0%	80.1%	↓
お料理セットトレー	74.1%	66.1%	↑ UP!
米袋	43.4%	45.2%	↓
ペットボトル	49.9%	51.2%	↓



●ABパック・ヨーグルトカップ回収キャンペーン

今年度も7月と11月にキャンペーンを行い、今回初めて広報時にメルマガ配信を行ったことで過去最高の参加人数(3,608名／昨年より1,474名増)となりました。普段スマホで注文している方や、あまりカタログを見ない方に対して効果的なアプローチとなったのではないかと思います。回収率も昨年より0.6%向上しました。

今後も効果検証を行い、より多くの組合員のみなさまが参加できるキャンペーンとなるよう検討していきます。



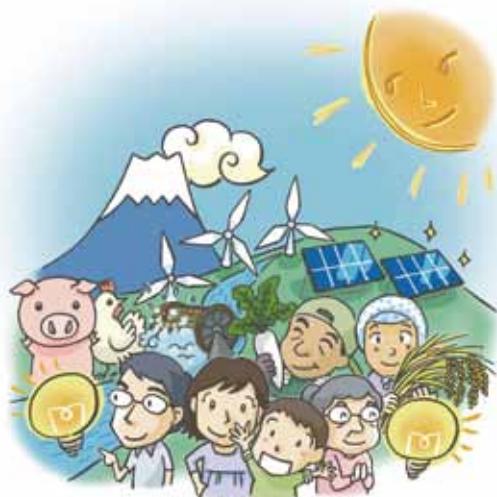
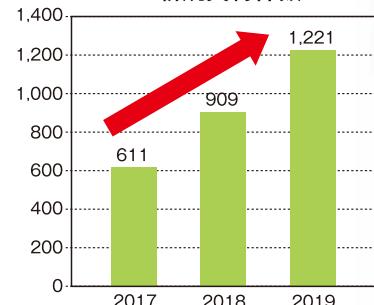
エネルギーの取り組み

パルシステムでは地球温暖化の原因となる石油や石炭などの「化石燃料」に頼らない社会づくりを目指し、産直産地や地域と連携しながら再生可能エネルギーの拡大を図るパルシステムでんきの普及を行っています。今を生きる自分たちだけが便利に暮らせればそれでよいという考えではなく、自分の大切な存在である人たち(次世代)にも、できるだけ住みやすい環境を引き継いでいくことが大切だと考えます。

2019年度は茨城 栃木エリアにて1,221件(前年比134.3%)の切り替えお申込みを頂き、2,477件の保有件数となりました。みなさまの応援を力にだんだんと広がりをみせています。



パルシステムでんき
新規契約件数



●茨城 栃木エリアの発電所のご紹介

森のソーラー (JAつくば市谷田部産直部会)



▲太陽光発電

2011年の原発事故の影響により、約14万6千本もの原木をやむを得ず廃棄したJAつくば市産直部会では、現在は(株)森のソーラーとして、ソーラーパネルをハウスの天井代わりに利用しながら原木しいたけを栽培しています。そして売電で得た収益を放射能対策費や製品開発費などに活用しつつ、原木しいたけを広める活動を前向きに取り組んでいます。

那須野ヶ原土地改良区連合



▲小水力発電

明治以降に開拓がはじまった高原地帯は、農地や牧草地を広げるために先人たちが苦労を重ね、かつては390基もの水車が動いていました。地域の歴史を受け継ぎ、今、土地改良区として一体に張り巡らされた用水路などの整備、保守管理を行いながら、発電という形で「水」の可能性を追求しています。

●2019年度 太陽光発電実績

	エンジョイパル日立館 発電設備:20.705kW	みとセンター 発電設備:115.89kW
年間売電量	22,061kWh	126,160kWh
一般家庭に換算	73軒分に相当	420軒分に相当
発電開始日	2015年10月	2013年7月



※自家消費／うしくセンター5kW、みとセンター10kW、栃木センター50kW

▲エンジョイパル日立館

組合員活動の取り組み

●テーマ別組合員活動「環境」

テーマ別組合員活動は、当生協の年度方針に基づき「食育・産直・環境・福祉平和国際交流」の4つのテーマのもと、組合員が自発的に活動しています。「環境」では、次世代を担う子供たちに対して環境体験型企画の開催・4Rの啓発・水環境保全企画などに取り組み、多くの組合員が参加しました。



▲鳥を観察することで沼の自然環境や生態系を学びました。



▲森林のはたらきや自然の豊かさを体験しました。

●沼の水環境保全に関する企画／

沼生き物観察会(38名参加)、バードウォッチング(21名参加)

●茨城県森林湖沼環境税活用事業 活用企画／

森林・林業体験 茨城県奥久慈懇意の森(24名参加)

●石けんの良さを伝える企画／

①イベント出展:8月24日 霧ヶ浦ECOフェスティバル2019

②レッスンライ石けんライフ:なかみとの2エリアで開催(計54名参加)



▲石けん・環境クイズを通してできるだけ排水を汚さない事を呼びかけました。



▲石けんと合成洗剤の違い・洗濯・掃除・食器洗いの4つのテーマで石けんの良さを伝えました。

●生物多様性の取り組み(生き物観察会)



5月

食と緑の交流事業 畑の体験学校 生きもの観察会

組合員親子含む46名が参加し、圃場の中でナナホシテントウなど19種類の昆虫と12種類の植物を見つけました。有機質肥料でたくましく育った野菜の畠は、青虫やアブラムシが出ても、必ず天敵の生き物が現れて守ってくれることを実体験から学びました。



6月

食と緑の交流事業 田んぼの学校 生きもの観察会

135名が参加し、カエルやオタマジャクシ、ザリガニ、ゲンゴロウ、トンボ、水蜘蛛、そして今年はホウネンエビを見つけることができました。「ホウネンエビが見つかる田んぼは非常に良い状態で豊作になる」ことを講師から教わりました。



6月

食と緑の交流事業 きのこの学校 森の生きもの観察会

両企画で93名が参加しました。ヤマユリなど13種類の植物をはじめ、カブトムシや羽黒トンボなど33種類の昆虫が見つかり、豊かな里山の生態系が保たれていることを確認しました。



9月

米沢郷牧場 生きもの観察会

43名が参加しました。子供たちは稻刈り前の田んぼに入ってたくさんのイナゴを夢中で追いかきました。捕まえたイナゴは翌日の昼食に佃煮でいただき、生物多様性だけでなく、食育についても学びました。

環境報告書

発行日 : 2020年5月 (対象期間2019年4月1日~2020年3月31日)

発 行 : 生活協同組合 パルシステム茨城 栃木

連絡先 : 〒310-0022 茨城県水戸市梅香二丁目1番39号
TEL.029-227-2225 FAX.029-227-2235

<https://www.palsystem-ibaraki.coop/>



パルシステムのエネルギー政策



本部及び配送センター

